

家計運営講座⑥番外編

『子どもの教育費の作り方』

今回はライフプランセミナーで質問を受けることが多い「子どもの教育資金作り」についてです。

まず、教育資金作り専用商品の検証をしてみましょう。

学資保険は元本割れ商品？

子どもを持つ親たちに絶大な人気があるのは、郵便局の「学資保険」。公務員の方にも大人気です。しかし、現在この商品に貯蓄性を期待できないことは、意外に知られていません。生まれてすぐに新規加入する場合、一八歳時に受け取る満期保険金一〇〇万円に対して、払い込み保険料総額はおおむね一〇五万円前後。純粋な貯蓄としてみるとマイナス五万円となります。「貯蓄のつもりなのになぜマイナス



深田 晶恵

ファイナンシャルプランナー (CFP・1級FP技能士)
有限会社生活設計塾クルー取締役

【ふかた あきえ】1967年北海道生まれ。外資系電機メーカーに8年間勤務後、1996年にファイナンシャルプランナー (FP) に転身。FP会社で実務経験を積んだのち、1998年4月に独立。現在は、同じオフィスのFP7人で構成する有限会社生活設計塾クルーにて、個人の方のお金周りの相談業務を行うほか、雑誌等の原稿執筆、講演などを手がける。近著に「住宅ローンはこうして借りなさい・新版」「3カ月でマネー美人になる!」、共著に「生命保険はこうして選びなさい」(いずれもダイヤモンド社)など。マネーコラム連載は、日経ウーマン、婦人公論など。http://www.fp-clue.com/

に？」と不思議に思うことでしょうか。理由は、学資保険は「保険商品」だからです。契約者である親が亡くなるとその後の保険料が免除になりますし、また被保険者である子どもが亡くなると死亡保険金が支払われる仕組みです。

毎月の保険料には、こうした保障を得るための死亡保険料と、保険を維持・管理するための保険料(付加保険料といえます)も含まれます。ですから、支払う保険料の全額が積み立てに回るわけではないのです。

また、予定利率引き下げの影響も大きいです。満期金支払いのための積み立てに回る保険料は、契約時に決まる予定利率で運用されます。バブル前後の高金利時期に契約した学資保険は、予定利率が高かったのですが、そ

図① 生存保険金付き18歳満期学資保険（保険金額200万円）の保険料

契約年	1990年（平成2年）	2007年（平成19年）
月払保険料	6,960円	9,680円
払い込み総額	150万3,360円	209万880円
受け取り額 （総額はどちらも200万円）	15歳20万円＋ 18歳180万円	12歳20万円＋ 15歳20万円＋ 18歳160万円

※契約者35歳男性・被保険者0歳男性のケース

の後の金利の低下により予定利率も引き下げられ、貯蓄性はどんどん低下しています。

つまり、貯蓄型の保険は、予定利率が高い時期（＝金利が高い時期）に加入するのが有利な活用方法であ

り、反対に予定利率が低いときには貯蓄として不利になります。

具体例で見てください（図①参照）。

契約年が平成二年と平成一九年のケースの比較です。商品内容に一部変更があり、お祝い金（生存保険金）が出る時期と金額が少し異なるのですが、受取総額はどちらも二〇〇万円です。払込保険料の総額は、平成二年契約は一五〇万三三六〇円ですが、昨年の契約なら二〇九万八八〇円と約五八万円も多く払うこととなります。しかも、貯蓄としてみると、いわゆる「元本割れ」ですね。

貯蓄型保険は、契約したときの予定利率が満期まで変わらない「固定金利タイプ」なので、今のような低金利のときの新規加入は避けたほうがいいことを覚えておきましょう。

子どもの死亡保障を抑える、通販により販売コストを抑えるなどにより貯蓄性向上を図った民間生命保険会社の商品があります。これらの商品は、元本割れはしないものの、年平均利回りはおおむね〇・九％程度。貯蓄性が高いとは言えませんね。

一％以下の低い運用利率を一八年間も固定することは、避けたいものです。金融商品や保険商品の有利性は、経済や金利の状況によって変わることが覚えておきましょう。

オーソドックスな積立を利用する

学資保険がダメなら、どんな商品で貯めるといいのでしょうか。保険以外で教育資金作り専用商品は特になのが現状です。専用商品にこだわらずに、銀行や郵便局の積立商品を使って普通に貯めましょう。財形貯蓄でもいいです。

とはいっても、ゼロ金利政策解除後でも預貯金の金利はまだまだ低く、積極的に預ける気分ではないかと思えます。でも、少なくとも学資保険のように元本割れをすることはありません。今は利息をあてにせずに、とにかく積み立てること。預貯金金利がもっと高くなったら、積み立てたお金を定期預金などに預け替えしましょう。

かかるお金の七〇八割でもOK

「子どもそれぞれに、いつまでにいくら貯めるといいですか」という質問もよく受けます。高校までは毎年の収入のなかで教育費を捻出しつつ、大学でかかるお金を貯めていきます。高校卒業後は、進路や仕送りの有無によってかかる費用は異なるので、図②③を使っておおよその予算を見積もることからはじめましょう。

よく「子ども一人につき、一八歳ま

図② 教育費見積もりシート（4年制大学に進学した場合）

	第1子	第2子
(A) 大学の受験費用や入学金など		
(B) 1年間の授業料		
(C) 1年間の仕送り		
(D) 初年度にかかるお金 (A) + (B) + (C)		
(E) 2年以降にかかるお金 {(B) + (C)} × 4年間		
合計額 (D) + (E)		

でに四年間分の学費四〇〇万円を目
標に貯めましょう」といった記事を見
かけます。子どもが二人いたら八〇〇
万円、三人なら一二〇〇万円！たと
えば、子どもが二人で八〇〇万円を一
八年間で貯めるなら、毎月の積立額は

図③ 大学の教育費

	初年度納入金 (入学金+授業料 +施設設備費)	次年度以降 年間授業料
国立（昼間部）	81.78万円	53.58万円
私立（昼間部）	130.83万円	83.62万円
文科系	114.65万円	72.20万円
理科系	149.80万円	101.22万円
医科系	515.24万円	269.58万円
歯科系	503.93万円	344.75万円
その他	146.00万円	91.92万円

※文部科学省調べ（2006年度）より作成。国立大学の授業料は標準額

約三万七〇〇〇円です（利息を考慮
せず）。これ以外に、マイホーム購入
の頭金や老後資金も平行して貯めなく
てはならないので、結構たいへんです。
確かに一八歳までに資金の準備をす
ませておくと安心ですが、今の収入の

なから、教育費だけで毎月四万円近
くの積立はきびしいというご家庭もあ
ると思います。

「何が何でも一八歳まで一人四〇〇
万円」というわけではありません。大
学在学中に得る給与収入の一部を毎
年の学費に充てることもできることを
忘れずに。実際に多くの人は、「貯め
たお金」と「その年の収入」の両方
で資金繰りされています。四年間の学
費を一〇〇%貯められそうな人は、が
んばって積み立てしてください。一八
歳までに全額用意するのが難しいなら、
七〜八割程度を目安に積立計画を立
てるといいでしょう。

ただし、地方在住で東京や大阪の
大学に行き仕送りが発生する可能性が
大きいとか、子どもの年齢が近く二人
分の出費が重なる時期があるという場
合は、一八歳までにできる限りの準備
をしておきましょう。今の時点で十分
な積立ができないなら、妻が働くよう
になったら積立額を増やすなどの対策
を立てるといいですね。わが家の事情
に合わせて柔軟にプランを立てるとこ
とがポイントです。図④のシートを使
って積立計画を立てましょう。

お金を借りるな

教育資金は、「貯める」以外に「借

18歳のときにいくら貯まるか試算しよう

図④ 積立予定表

父親の年齢	33歳	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
母親の年齢	30歳	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
第1子の年齢	3歳	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
第2子の年齢	0歳	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18

この間は、それぞれの子どもに毎月1万円ずつ積立する。お年玉は使わずに貯金する

下の子どもも小学校に入学したら、妻はパートに出るので、それぞれの子どもに毎月2万円ずつ積立をする。お年玉は引き続き貯金

下の子が中学入学したら、パートを増やし、月3万円ずつ積立する。上の子が大学入学したら、上の子の積立は中止し、下の子の3万円のみ積立をする。

りる」方法もあります。借りるなら金利の低いものから優先します。教育ローンで最も金利が低いのは「国の教育ローン」です。一般貸付で子ども一人につき二〇〇万円まで借りることが可能です。平成二〇年一月七日現在の金利は、二・五％（固定金利）と低く、魅力的ではありますが、あてにしている借りられないこともあるので注意が必要です。

まず、保護者の年収制限があること。申し込み要件は、現在は保護者の世帯年収が九九〇万円以内です。フルタイムの共働き夫婦だと年収制限を超え、借りられない可能性大。また、公的ローンは縮小傾向にあるので、将来、年収制限が引き下げられるかもしれません。ですから、国の教育ローンに比重をおいた資金計画は避けたほうが無難といえます。

次に金利が低いのは、「財形教育融資」です。こちらは財形貯蓄をしていることが要件で、年収制限は設けていません。財形貯蓄残高の五倍以内かつ最高四五〇万円まで借りることができます。ちなみに現在の金利は、二・五五％（固定金利）です。

財形貯蓄の積立の金利はまだまだ低いのですが、融資枠を確保しておく資金が足りなくなってきたときの備えとなります。

**住宅ローンの
繰り上げ返済に注意**

住宅ローンの繰り上げ返済を考えている人は、教育資金が貯まるまで慎重になることをお勧めします。優先すべきは教育資金作り、さらに余裕があるならローンの繰り上げ返済、このように考えてください。

今は住宅ローンの金利よりも国の教育ローンの金利のほうが低いので、教育ローンを借りて住宅ローンを返済した方が有利となります。しかし、将来金利水準が上がると教育ローンの金利がすでに借りている住宅ローン金利を上回る可能性があります。

また、国の教育ローンの要件がきびしくなったり、縮小したりすると、予定していた金額が借りられなくなるかもしれません。

ローンはローン、教育費作りは教育費作りといったように家計を縦割りと考えてしまいがちですが、全体を見ながらバランスの取れた家計運営を心がけましょう。それが、将来の安心につながります。

家計運営講座は、今回が最終回となります。長い間お読みいただきまして、ありがとうございました。